

内川と富山新港の水質調査に関わって

会員 奥川光治

NPO 法人「水辺のまち新湊」からの依頼を受けて、内川の水質調査を始めたのは2009年でした。同 NPO 法人が国土交通省からの助成を受け、「地方の元気再生事業」として、「いち」、「環境」、「まち歩き」の事業を開始しようとしていましたが、その一部として内川の水環境調査を富山県立大学に依頼されたのです。新湊地区の活性化のために、内川の水辺環境をよくしたいというお話でした。内川が過去に県内一の汚濁河川であったというのは知っていましたが、現状はどうかままったく知らないまま依頼を受け、同僚とともに水質や生物に関して調査を開始し、同時に射水平野の水環境の変遷についても調べてみました。その中でいくつか興味を抱かせることがありました。

一つは、内川や富山新港、射水平野の水環境が地域の開発とともに大きく変貌を遂げてきていることです。射水平野の水田が湿田のため農作業は腰まで水に浸かった重労働であったのを、戦後の乾田化事業が解消したこと、しかし、乾田化のために農業排水系統を変更したため、内川の流入支川の流量が減少し、内川の水質汚濁の一因につながったことを知りました。また、新産業都市建設の指定を受け、放生津潟を海に開口し、富山新港を建設したために、内川は奈呉の浦と富山新港の2ヶ所で海につながり、停滞性の河川となったということもわかりました。そのため、生活排水や工場排水などが原因で、極度の汚濁河川となったようです。

そこで、内川とその流域の水質改善のために庄川の水を導水する浄化対策事業が二度にわたって行われ、それぞれ1980年と1998年に完了しています。その結果、内川の有機汚濁は、か

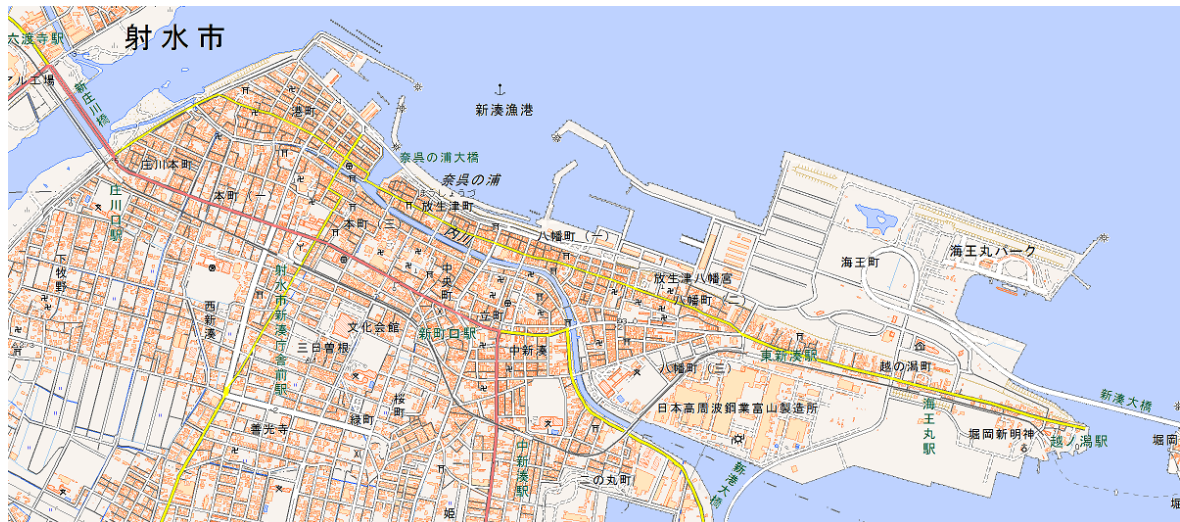
なり改善されています。そのため、水質調査の依頼を受け、下見に行ったときには、「十分いい水環境だ」と思ったものでした。しかし、何度も調査を重ねていると、水が澄んでいるときもあれば、白っぽく濁っているとき、さらには下水臭がするときさえありました。これらは、庄川からの浄化用水の導水と潮汐の影響を受けて内川の流が複雑になっていることと関係があります。また、浄化用水が日中の9時から17時に限られていることも関係しています。このような複雑な水の流は、学術的にも興味を抱かせることの一つです。

今まで行ってきた内川と富山新港の水質調査では、次のようなことがわかってきました。

- ①潮位が低く内川が海域に向かって流下するときは、浄化用水がその役割を果たしている。
- ②潮位が上昇すると、内川が停滞し、浄化用水の効果が低下するため、水質が悪化する。
- ③浄化用水が停止し、上げ潮のときは海水が浄化用水のような働きをしている。
- ④浄化用水と海水が短時間で入れ替わるので、生物相が貧弱である。

常識で考えればわかることを確認したに過ぎないかもしれませんが、もう少し範囲を広げて調査を継続していきたいと思っています。読者諸氏からコメントをいただければ幸いです。

なお、調査には多くの方々の協力を得ています。紙面を借りて感謝いたします。



地理院地図(国土地理院 HP より)。現在、奈呉の浦と富山新港の間の内川はほとんど停滞している。以前、内川は放生津潟から西に流下していた。庄川を挟んで六渡寺駅付近の川も内川である。庄川の改修・流路付け替えにより内川が分断された。



日本のベニスとも呼ばれる内川の風景